

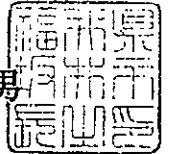


坂 建 第 642 号

平成20年10月 6日

国土交通省道路局長 殿

坂井市長 坂 本 憲 男



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け 国道企第37号で作成依頼のありました見出しの件について、別添のとおり提出します。

中長期な計画の作成にあたっての意見

※坂井市の現状と課題

坂井市は、旧坂井郡の三国町、丸岡町、春江町、坂井町の4町が平成18年3月に合併し誕生した市です。

坂井市は歴史的にも密接なつながりがあり、地理的にも坂井平野で連続していることから、数多くの道路網が整備されています。

北陸自動車道、国道8号、嶺北縦貫線、芦原街道など根幹的な道路網は南北方向を中心に形成しており、東西方向が脆弱なのが現状で、東西約32km、南北17kmの新市の一体性と住民相互の交流促進を図ることが重要な課題です。

当市は、総面積210km²の広大な面積を有し、坂井平野により連続しているものの、市街地は分散し、産業や歴史・文化、交流などの拠点・地域資源も分散しています。

坂井市においては、一極集中型の都市を創ることは困難なため、都市の核・拠点が機能を分担し、それぞれが交通網でネットワークされた多核連携型の都市構造を目指すことにより均衡ある発展を目指すこととなっています。

※意見

平成の大合併により日本各地に新しい自治体ができ、その自治体の目指すべき方向が定められ、街づくりが行われてきていますが、今後の道路整備中期計画の中で重点的に進める上で特に優先度の高い政策として次のような意見を述べます。

①合併に伴う速やかな一体性の確保、及び産業の活性化（観光客の誘致）につながる道路整備

坂井市としては、合併に伴うすみやかな一体化に資する道路であり、新しい街の産業の活性化にもつながり、加えて観光客誘致に効果的な道路として、地域高規格道路である福井港丸岡インター道路の早期整備を強く望みます。

現状は、テクノポートへの大型車やタンクローリーの往来が激しいにもかかわらず主要地点でクランク状態のため、連続性にかけて、慢性的に交通渋滞がみられます。

本道路の完成は、交通渋滞が解消され、テクノポート等の産業が活性化するばかりか、災害時には緊急輸送路としての役割を担う重要な道路であります。

併せて、北陸を代表する観光地の東尋坊や永平寺、日本最古の丸岡城（霞ヶ城）の観光客誘致にも効果的です。

もって東西に細長い坂井市のすみやかな一体化にも資するものと確信しております。

②交通弱者に配慮した道路整備

本市の道路は、戦後の高度経済成長時代に整備されたもので、自動車中心の道路整備であるため、子供や高齢者などの交通弱者に対して配慮がなされておられません。

今後、学校や公共施設等の周辺の歩道を幅広くバリアフリー化を進め、安全・安心を図るとともに、これらに費やす補助の拡充を求めます。

③雪に強い道路整備

本市は、日本海側に面した、いわゆる裏日本であります。冬期間における降雪は市民生活を妨げ、経済活動にも影響をあたえ、その損失は多大であります。

これらの解消を図るために、除雪車の購入、融雪・消雪にかかる維持管理費や、リースによる除雪機械借り上げに対し、幅広い補助の対応をお願いします。

このことにより、冬期間の経済活動がスムーズになるばかりか市民生活も容易になり、災害時の緊急輸送道路としての役割も増すものと確信しております。

④橋梁長寿命化に伴う橋梁点検整備

近年の異常気象による局地的な豪雨や、多発している地震、これらは市民生活に甚大な被害を及ぼすだけでなく、尊い人命までも脅かすもので、避難路となる道路の安全確保はもとより、それに架かる橋梁の安全確保が必要となります。

当市も72橋梁の点検や整備補修ならびに耐震化となりますと、膨大な費用となりますので、それらの橋梁の整備は財政的にも無理な状態であります。

つきましては、これらに費やす補助の拡充を求めます。

これらのことから、国におかれては、地方の道路整備の実態や道路の果たす役割を十分に理解いただき、今後とも予算の確保を強く求めます。

平成20年10月 6日

坂井市長 坂 本 憲 男